

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 研究職コースについては、学生を定着させ5年間での学位取得者を着実にする。	→研究職コース指導委員会のあり方を再度チェックし、指導状況の報告回数。	A
2. 専門学識コースについては、2年間で体系的かつ高度な専門知識を提供する。	→修士論文の成績評価および修士学位取得者としての就職状況。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

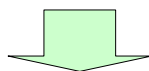
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.1.1	(方針) 前期課程では、主分野に特化するのではなく、主分野以外に必要と考えられる分野についての履修を促して、商学に関する幅広い基盤を得させることを目的として、修士（商学）を授与する。後期課程では、独創的な理論研究を行って博士論文を提出することによって、博士（商学）の学位を授与する。
☆ 小項目6.1.2	(現状説明) 商学研究科においては「研究職コース」と「専門学識コース」が設定されており、その名称が示すとおり、研究職を目指す者と企業等において専門職に就く者とを区分して受け入れ、それぞれの教育目標に応じた教育を行い、学位を授与している。
☆ 小項目6.1.3	関西学院大学のホームページにリンクされた商学研究科独自のホームページにおいて学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が明示されている。
☆ 小項目6.1.4	研究科委員会において、必要に応じ適宜議論し、改善を重ねている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	研究職コースにおける指導委員会の指導状況について、研究科委員会に宛てて2ヶ月に1回の報告を実施することとした。
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



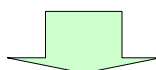
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	2ヶ月に1回の報告を実施することとしたが、5年間を視野に入れた研究指導において2ヶ月に1回というかなり頻繁な報告が必要かどうか、あらためて検証する必要がある。
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	「伸長させるための方策」欄に記載したとおり、報告回数については、検討を要す。報告のための指導となってはならない。
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	今後、1年間程度をかけて2ヶ月ごとの報告書を時系列で比較し、無理があるようであれば、報告回数を削減する。
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	2009年度末に目標を設定したところであり、この4か月弱の間になしうる改善はすべて行われている。また、この間に新たに改善すべき事項は発生していない。
--------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 評価項目6.1は、研究科として教育目標等を学内外に正しく周知させる努力をしているか、という説明責任にかかわるものです。「目標」1、2や小項目6.1.2の「現状説明」は内容的にずれがありますので、再検討が望まれます。
- 「効果が上がっている事項」「改善すべき事項」で扱われているのは、6.3「教育方法」の項目が適切でしょう。

【学内委員】

- 自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。
- 小項目6.1.1.の(方針)には学位授与方針を書いてください。
- 教育目標も示してください。
- 現状説明の小項目6.1.1では(方針)を具体的に記述してください。また、ここで求められている記述内容は教育目標のみではありません。
- 小項目6.1.2の現状説明は、教育課程の編成・実施方針と明示について記述してください。
- 2009年度の議論回数や内容について記述してください。
- 目標・指標の記述には誤りがあり文意が不明です。
- 「効果が上がっている事項」および「改善すべき事項」で述べられている内容は、小項目と適合しません。むしろ、中項目6.2ないし6.3に対応するものと思われる。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目6-1-1の(方針)記述を次にとおりとする。「前期課程では、主分野に特化するのではなく、主分野以外に必要と考えられる分野についての履修を促して、商学に関する幅広い基盤を得させることを目的として、修士(商学)を授与する。後期課程では、独創的な理論研究を行って博士論文を提出することによって、博士(商学)の学位を授与する。」

★

教育課程の編成等については、次年度の科目設定に向けて、研究科委員会としては通常、年間2回(提案と審議決定)の議論が行われるが、その間、6つの専門領域ごとの分野別での会議によって慎重に科目ごとの内容や開講、不開講についての精査が行われている。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.1.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.1.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.1.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.1.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの授業科目開設数
6.1.0.S5	必修・選択ごとの開設授業科目数
6.1.0.S6	系列別卒業必要単位数

<個別的な指標>
